

特集

ごみ処理広域化に向けて

一般廃棄物処理基本計画を改定しました

平成24年度に策定した、ごみ処理の指針となる一般廃棄物処理基本計画。市を取り巻く状況に大きな変化が見込まれることから3月に改定しましたので、その内容をお知らせします。

問合せ 環境課 (☎372-3311・内線4102)



焼却施設の完成予想図

計画改定の趣旨

一般廃棄物処理基本計画とは、市内で発生した一般廃棄物を適正に処理・処分するための計画です。平成24年度から令和8年度までの15年間を計画期間として各種施策を推進してきました。

しかし、実際は計画よりも多くのごみが排出され、最終処分場の確保について検討が必要になりました。また、千歳市に建設中の焼却施設が令和6年度から稼働し、ごみの分別区分が変わることや、北海道ポールパークFビレッジの開業により事業系ごみの排出量が増加するなど、さまざまな変化が見込まれています。

そのため、第6次総合計画のもと国や道の計画や関係法令などと整合性を図りながら、計画を改定しました。

一般廃棄物処理基本計画（改定版）

令和8年度までの目標

- ① 1人1日あたりの家庭から排出されるごみの量を550g以下に減量する
- ② 事業所から排出されるごみの量を令和元年度と比べて105%未満に抑える

基本方針と主な施策

- 1 3Rのより一層の推進
 - 生ごみのバイオマス化処理（資源化・有効活用）
 - ミックスペーパーの資源化
- 2 環境負荷の少ない、効率的で安定した処理・処分の推進
 - ごみ処理の広域化に向け分別区分などの変更
 - 事業系ごみの展開検査の実施
 - 災害廃棄物処理計画の策定
- 3 市民・事業者・行政のパートナーシップ構築
 - 事業所訪問指導の実施
 - 環境に関する市民団体との協働
- 4 きれいなまちづくりの推進
 - 市内一斉清掃の実施
 - 不法投棄対策の実施
- 5 情報発信と環境学習の充実
 - 出前講座の実施
 - きたひろごみ通信の発行

? 3Rとは

- ごみを減らす3つの取り組みのこと。
- リデュース＝ごみを減らす
 - リユース＝繰り返し使う
 - リサイクル＝再資源化する

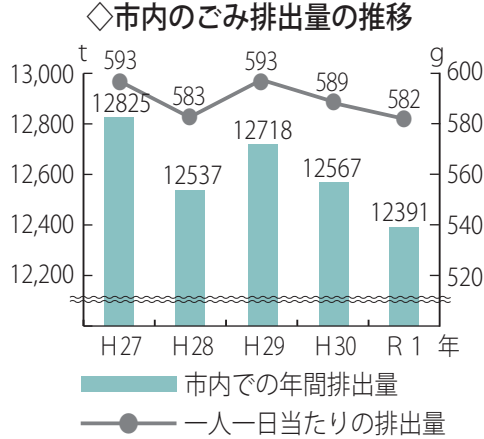
ごみ処理の現状と課題

ごみの排出量は横ばい

家庭から排出されるごみは毎年1万2000t程度の横ばいで推移しています。

1人1日当たりの排出量は約590gですが、目標は550g以下のため、1人40gの削減で達成することができません。

一人一人の小さな行動の積み重ねが大きな減量につながります。

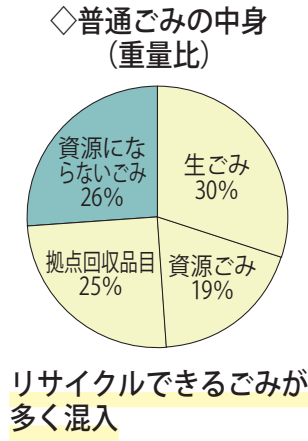


事業系ごみは毎年5000t程度で推移しています。目標である排出量増加を令和元年度の105%未満に抑えるため、事業所への訪問指導などで分別の徹底を促します。

大切な資源が普通ごみに

平成27年から令和元年に家庭から排出された普通ごみのうち、7割以上が分別するとリサイクルできるごみでした。

リサイクルできるごみでも、普通ごみに混ぜるとそのまま埋め立てられてしまいます。資源として活用するために、適切な分別をお願いします。



ごみ処理経費はさらに増加

年間のごみ処理経費は年々増加しています。令和6年度には広域での焼却処理も始まることから、千歳市までのごみの運搬費や施設の維持管理費など、経費のさらなる増加が見込まれます。

未来の負担を少しでも軽くするために、ごみの削減や分別など、一人一人のご協力をお願いします。



まちの未来のために、それぞれができることを

1人1日40g、ごみを減らしましょう

一人一人が少しずつごみを減らすことで、最終処分場の延命やごみ処理経費の削減につながります。気軽に取り組めることから始めてみましょう。

ひと手間で、ごみから資源に

ピンク色の有料ごみ袋で排出する普通ごみには、無料で排出・リサイクルできる資源ごみが多く含まれています。市では、下記を資源ごみとして収集、拠点回収しています。

- びん・缶・ペットボトル
- プラスチック製容器包装ごみ
- 紙製容器包装ごみ
- 段ボール
- 紙パック
- 新聞紙
- 雑誌
- 有害ごみ
- ミックスペーパー(拠点回収)



繰り返し使えるものを持ち運んで

マイボトルやエコバッグなどを持ち歩くことは、ペットボトルごみやプラスチックごみなどを減らすことにつながります。



食品ロスを減らし、生ごみは分別

計画的に献立を決め、食べきれぬ分の食品を購入しましょう。調理により出た生ごみは黄色の有料ごみ袋で排出することで、乾燥おでい肥料「あしるのめぐみ」に生まれ変わります。

